



rsh コマンドの実行方法

AdRem NetCrunch 9 参考資料

目次

1. RSH コマンドの実行の概要	1
2. バッチファイルの定義	1
2.1. ユーザーの指定	1
2.2. POSIX プロセスからの起動	2
2.3. NM2 有償版を利用する場合	2
3. NETCRUNCH の設定	2
3.1. WINDOWS エージェントレス監視の確認	3
3.2. アラートアクションの追加	3
3.3. NETCRUNCH ノードの IP アドレス	3

1. rsh コマンドの実行の概要

本資料では、AdRem NetCrunch 9.3.3.3896 日本語版(以下 9)における Windows の rsh コマンドを実行する方法について記載します。他社製品のコマンドの利用方法は、製品のマニュアル等をご参照ください。なお、ご利用の NetCrunch のビルド番号が異なると、仕様の変更などにより、動作、設定などが異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

本文書では、イベントが発生した際に rsh コマンドを実行する方法として、バッチファイルを利用する場合について記載しております。アラートアクションにバッチファイルの実行を定義することで、NetCrunch から rsh コマンドの実行が実現できます。

なお、NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2008 の場合、rsh コマンドを実行するために、UNIX ベースアプリケーション用サブシステム (SUA) のユーティリティとソフトウェア開発キット (SDK) のインストールが必要になります。また、Windows Server 2012 では SUA は非推奨、Windows Server 2012 R2 では SUA は削除されております。下記の Web ページを併せてご参照ください。

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn303411.aspx>

補足となりますが、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアを、有償にてご提供しております。ソフトウェアを利用することで、Windows Server 2012/R2 や Windows Server 2016 でも rsh コマンドの実行が可能となります。ご興味がありましたら、株式会社情報工房までお気軽にお問い合わせください。

http://www.johokobo.co.jp/nm2/nm2_index.html

2. バッチファイルの定義

バッチファイル内には、任意の rsh コマンドを定義します。rsh コマンドの定義に関する注意事項について、記載します。

2.1. ユーザーの指定

通常、コマンドプロンプトなどから rsh コマンドを実行する場合は、Windows にログインしたユーザーが付与されるため、コマンド上にユーザーを指定していてもコマンドが正常に実行される場合がございます。しかし、NetCrunch 関連のサービスは、デフォルトでは「ローカルシステムアカウント」として稼働しているため、コマンドにユーザーが付与されません。NetCrunch から rsh コマンドを実行する場合には、コマンド上でユーザーを指定する必要があります。

NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2008 (R2 含む) の場合:

「-l」のほか、「-D」でユーザー名を指定します。

【例】

```
c:\windows\posix.exe /u /c /bin/rsh <IP アドレス> -DI <ユーザー名> <コマンド>
```

※本マニュアル作成時点では、Windows Server 2008 の rsh に、ユーザー名が正常に引き渡されないという不具合がございます。その回避方法として、「-D」のオプションが利用できるということです。下記の Web ページをあわせてご参照ください。

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/windowsserver/gg486885>

<http://support.microsoft.com/kb/2360829/>

2.2. POSIX プロセスからの起動

NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2008 である場合、「2.1 ユーザーの指定」にある例のように、POSIX プロセスから起動するように設定する必要があります。rsh のパスを通している環境であっても、POSIX プロセスから起動するように定義をお願いいたします。

2.3. nm2 有償版を利用する場合

nm2 有償版は、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアです。nm2 有償版を利用することで、SUA を利用できない Windows Server 2012/R2 や Windows Server 2016 であっても、rsh コマンドを実行することが可能です。

【例】

```
<nm2 のパス> RSH <IP アドレス> <ユーザー名> <コマンド>
```

3. NetCrunch の設定

NetCrunch 側の設定について、記載いたします。

3.1.Windows エージェントレス監視の確認

NetCrunch からバッチファイルを実行する場合、Windows エージェントレス監視を行う必要がございます。デフォルトインストールの場合、NetCrunch は自動的に自身のサーバーに対して Windows エージェントレス監視を行っております。NetCrunch ノードを右クリック→[ステータス]の[サマリ]タブにて、[Windows Server]の項目が OK と表示されていることをご確認ください。

3.2.アラートアクションの追加

アラートアクションの追加手順について、以下に例示します。なお、以下の手順ではアラートスクリプトを設定し、イベントに対して適用しております。その他、イベントに対して直接アラートアクションを定義することも可能です。

アラートスクリプトの定義

1. NetCrunch メインメニュー→[監視]→[アラートスクリプト]を選択します。
2. [アラートスクリプト]ウィンドウにて、[追加]をクリックします。
3. [アラートスクリプトの編集]ウィンドウにて、スクリプト名を設定します。
4. [追加]→[すぐに実行されるアクション]または[遅延後に実行されるアクション]または[アラートクローズ時に実行するアクション]を選択します。
5. [アクションの追加]ウィンドウの[コントロール]タブにて、[Windows プログラムの実行]をダブルクリックします。
6. [アクションパラメータの編集]ウィンドウにて、以下の設定を行います。
プログラム実行ホスト: <NetCrunch ノード>
ファイル名: 用意したバッチファイルのパス
7. その他必要に応じて設定の上、[OK]をクリックします。

アラートスクリプトの適用

1. NetCrunch メインメニュー→[監視]→[監視パック&ポリシー]を選択します。
2. 対象のイベントが定義されている監視パックやマップ、ノードを開きます。
3. 新しく開いたウィンドウの[アラート&レポート]タブにて、対象のイベントを右クリック→[定義済みアラートスクリプトの適用]から対象のアラートスクリプトを選択し、[OK]をクリックします。

3.3.NetCrunch ノードの IP アドレス

NetCrunch では、NetCrunch ノードとなっている IP アドレスでバッチファイルを実行します。NetCrunch 搭載サーバーが複数のインターフェースを持つ場合、NetCrunch ノードの

IP アドレスにご注意ください。rsh コマンドの実行先で IP アドレスでの制限がある場合、NetCrunch ノードの IP アドレスを許可する必要があります。

NetCrunch ノードの IP アドレスを変更する場合、NetCrunch のメインメニュー→[アドレス]→[プロパティ]の[監視]タブにて「NetCrunch ノードを変更する」をクリックしますと、新しいウィンドウが開きます。開いたウィンドウの[NetCrunch ノードアドレス]のプルダウンメニューより選択できます。